



日本赤十字社

京都第一赤十字病院

人間を救うのは、人間だ。Our world. Your move.

絆

泉山長老
俊朝

京都第一赤十字病院



人道と奉仕の赤十字精神に基づき、
患者さまにとって安心できる
適切な医療を行います。

夏号

2017年7月発行
vol. 65

Contents

就任挨拶	2,3
臓器癌早期発見のための当科での取り組み	4,5
形成外科よりお知らせ／	
就任挨拶と新規クリニカルパス入院のご案内	6
お知らせ	7

悪性腫瘍が我が国の死因の第一位になってから35年以上になります。最近、外来で高齢のがん患者さんを紹介いただくことが多くなりました。80歳を過ぎても最新の外科・内視鏡手術や化学療法を受け、元気に退院される姿を目にすることも少なくありません。しかし、2040年頃まで高齢者が増加し認知症患者も急増する時代をむかえ、どこまで積極的な治療をするかは、われわれ医療者にとり難しい問題になりつつあります。がんや高齢者に限らず、患者・家族・医療従事者の間で、今後の治療・ケア

をあらかじめ話し合うアドバンス・ケア・プランニング(ACP)は、高度急性期病院でも避けて通れない診療プロセスです。今年夏に国の策定する第3期がん対策推進基本計画では、がんの予防や早期発見とともに、ライフステージに応じたがん対策が取り上げられています。当院でも、病期、年代、ライフスタイルに応じたきめ細かく質の高いがん医療を実践していくためには、院内チーム連携と院外病診連携が益々重要になりますので、今後ともご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

副院長 吉田 憲正



HIDEKI
UEDA

第一整形外科／部長

植 田 秀 貴

この度第一整形外科部長を拝命いたしました植田秀貴と申します。平成7年に京都府立医科大学を卒業いたしました。当院に着任してから12年が経過しております。

当院は救命救急センターを保有した3次救急病院であり、様々な重症外傷が搬入されます。その中でも骨盤輪骨折、寛骨臼骨折、多発外傷、重度四肢外傷などは、他の一般病院の整形外科

では治療ができない外傷です。外傷整形外科として京都のトップランナーであり続けるべく、救急科と密な連携を図り、これら難易度が高い外傷に立ち向かっていきたいと思っています。

また、整形外科領域の中でも、特に難解な骨軟部腫瘍を専門としております。地域の先生方が骨軟部腫瘍の治療に悩むことなく、一般診療を行っていただけるようにサポートするつもりです。さらには、当院はがん拠点病院であり、多数のがん患者さんが治療を受けておられます。がん治療は年々進歩しており、それに伴って骨転移の有病率は増加傾向にあります。骨転移によるADLの低下は治療効果や患者満足度を下げる結果につながります。亡くなる直前までQOLを保つことを目標に、がん診療科、緩和ケア科および放射線治療科と協力して、安心いただける治療を行いたいと思っています。

まだまだ若輩者であり、更なる研鑽も必要かと存じますが、ご指導、ご鞭撻の程、よろしくお願い申し上げます。



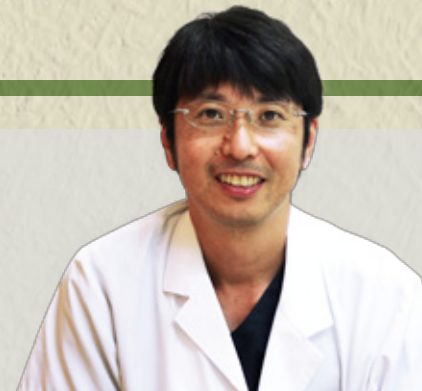
TADAHIRO
YASUO

産婦人科／副部長

安 尾 忠 浩

保部長を中心にチームで切磋琢磨しながら安心・安全な医療を提供できるよう邁進してまいりますので、御指導・御鞭撻を賜りますよう何卒よろしくお願いいたします。

形性股関節症はもちろん、高度な変形の症例や骨欠損を伴う再置換症例など手術難易度の高い症例に対しても人工股関節を用いた手術を行っています。また、若年者の股関節形成不全症や大腿骨頭壊死症に対しては骨切り術の適応を考慮に入れ治療を行っています。手術を受けたことを意識しないような機能回復のためにはリハビリテーションが重要であると考えています。一人一人が元氣なカラダでもっと幸せな生活をおくれるように急性期からしっかりとサポートします。その後は社会背景などを考慮しつつ早期退院し自主リハビリ、病診連携による外来リハビリあるいは人工股関節全置換術地域連携パスによる回復期リハビリを選んで頂いています。地域に信頼され、選ばれる病院を目指していきますので何卒宜しくお願い申し上げます。



KUNIKAZU
KUROSAKI

脳神経外科／副部長

黒 崎 邦 和

この度、脳神経外科副部長を拝命致しました黒崎邦和と申します。平成12年に富山医科薬科大学（現富山大学）を卒業し、同大学脳神経外科に入局、関連病院で脳神経外科一般臨床

平成29年4月より泌尿器科の副部長を拝命致しました、石田博万と申します。苗字のわりに、少し読みにくい名前ですが、「ひろかず」と読みます。これまでの経歴ですが、平成12年に京都府立医科大学を卒業し、同大学泌尿器科学教室に入局致しました。研修後、5つほどの関連病院に勤務したのち、同大学大学院で学位を取得しました。その後、京都第二赤十字病院、同大学附属病院での勤務を経て、本年4月より当院で勤務させていただいております。今回、初めて、副部長という肩書きをいただくこととなり、今までと少し違う立場からの仕事も増えるであろうことに不安を抱きつつ、また新たな気持ちで頑張っていきたいと思っています。これまで、多くの病院でたくさんの先輩方のご指導を賜りつつ、研鑽を積んでまいりましたが、泌尿器科医としても、まだまだ勉強

に従事しました。大学病院では脳腫瘍や小児の外科的治療に携わり、特に脳室内病変に対する神経内視鏡手術の安全・確実な手技の確立を目指して研鑽をつんでおりました。平成25年より地元の京都にUターンすることとなり、当院に在籍しております。

神経内視鏡手術は従来の開頭手術と比較すると低侵襲であり、近年急速に普及しております。これまでの経験を生かし、当院でも内視鏡治療に取り組んでいきたいと考えております。

脳神経外科は手術だけでなく診断、急性期治療、慢性期管理までも扱っており、脳卒中、頭部外傷、脳腫瘍以外にも様々な分野があります。スタッフと協力し、最適な医療の提供に努めてまいりますので、今後とも御指導・御鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。



HIROKAZU
ISHIDA

泌尿器科／副部長

石 田 博 万

すべきことばかりです。赴任直後のため戸惑う毎日ですが、少しでも早く患者さまのお役に立つことができるよう精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくお願い致します。

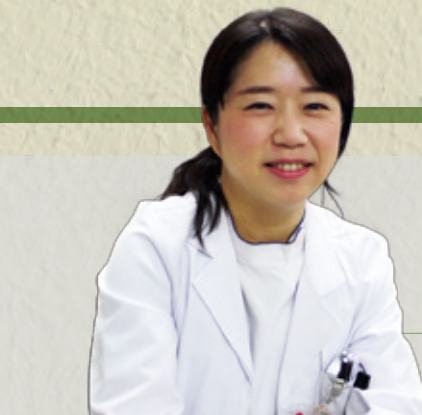


MASAAKI
KURIBAYASHI

リハビリテーション科／副部長

栗 林 正 明

この度、リハビリテーション科部副部長を拝命いたしました。平成14年に京都府立医科大学を卒業し、平成22年に整形外科医として当院に赴任しました。赴任当初から外傷と股関節疾患を中心に診療を行って参りました。通常の変



NAOKO
ITOI

乳腺外科／副部長

糸 井 尚 子

この度乳腺外科副部長を拝命いたしました糸井尚子と申します。平成11年大分医科大学（現大分大学）を卒業後、滋賀医科大学外科学講座へ入局しました。大学病院や地域の病院で勤務・研鑽したのち、平成20年1月当院乳腺外科へ赴任いたしま

した。李部長の御指導のもと平成24年乳腺専門医を取得した後、一旦当院を離れることになったのですが、ご縁があって再び平成28年4月より再赴任させて頂きました。

現在乳癌は日本人女性の罹患する癌第1位となっています。同じ女性として「乳癌患者さんの味方となり、自分が受けたいと思える医療を提供すること」、「画一的な治療ではなく、一人一人に最適な治療を提案すること」を心がけて日常診療を行っています。

また後進の指導においては、新専門医制度に対応出来るよう体制を整えております。

まだまだ未熟な所が多く御迷惑をおかけするとは思いますが、地域の先生方と患者様から信頼していただける様、日々精進していく所存ですので御指導の程宜しくお願い申し上げます。

膵臓癌は多くの癌の中でも予後が極めて不良の癌といわれています。2014年の国立がんセンターの統計によれば、全国で1年間に約31,000人が膵臓癌で死亡し、国内の癌死亡者数では男性が第5位、女性は第4位にランクされ増加傾向にあるとされています。頻度の多い癌の5年生存率を見ますと、肺癌35%、胃癌64%、大腸癌73%、肝臓癌32%、乳癌91%ですが、膵臓癌は7%と極めて予後不良となっています。その原因は膵臓癌が早期から浸潤、転移をきたしやすく、見つかったときにはすでに手術適応がない症例が多いといった現状があるからです。どのくらいの大きさで膵臓癌を見つければ予後の改善が期待できるかについては、いくつかの研究から腫瘍径2cmでは不十分で1cmまでの段階で早期に発見し手術ができれば、5年生存率は50%程度まで期待できるといわれています。しかし統計上は腫瘍径1cmまでで発見されているのは全体の2%未満です。

膵臓癌の早期発見をめざすには病診連携が重要で、近隣の医師会、かかりつけ医（開業医など）と協力してリスクファクターを有する患者を拾い上げ、経過観察を厳重に行うことで膵臓癌の早期発見が期待できるものと考えています。

具体的にはチェックリスト（表1）の項目に1つ以上該当した患者さんを当院へ紹介していただき、まず採血、各種画像検査（腹部US、MRCP、CTなど）で評価を行ない、そこで経過観察で良いと判断した場合には、病診連携パス（表2）で経過観察を行います。最初の2年間は3ヶ月おきに画像評価を行い、当院で採血、画像診断（腹部US、MRCP、CTなど）、かかりつけ医で採血、画像診

断（おもに腹部US、腹部USを行わない先生は当院でのUS病診枠を利用）を交互に行います。2年後からは画像評価を6カ月おきとし、当院では採血、画像、他院では主に採血のみを3ヶ月おきに交互に行っていくものとします。その間に異常な変化を認めた場合はその時点で当院へ再診いただき適宜精査を行うこととします。

同様の試みはすでに広島のJA尾道総合病院や大阪の北野病院を中心としたプロジェクトで行われ、Stage0の上皮内癌を発見するなどの成果を挙げています。当院でもこれらを参考に膵臓癌の早期発見に向けてこの取り組みを行い、膵臓癌の予後向上を目指したいと考えております。当院の特別顧問（京都府立医科大学特任教授）、病理診断科の柳澤昭夫先生はStage0の膵臓癌の診断では世界的に有名な先生であり、これまで日本で報告されたStage0の膵臓癌の診断の多くに関わっておられ、浦田洋二部長とともに日々ご指導をいただいております。

現在最もやっかいな癌といわれる膵臓癌の予後向上のため、今後地域の医療機関と連携し貢献していきたいと考えておりますので、宜しく願い申し上げます。紹介は月曜日から金曜日までのすべての消化器内科の外来日で受け付けております。

消化器内科 副部長・胆膵部門長 佐藤 秀樹 / 副院長・がん診療推進室長 吉田 憲正

膵臓癌早期発見のための 当科での取り組み

Contents of activities

Check

膵がん早期発見のための チェックリスト

項目	リスク因子	チェック
臨床症状	黄疸 背部痛、上腹部痛（胃内視鏡検査では原因不明）	
血液検査異常	膵酵素異常（アミラーゼ、リパーゼ等） 腫瘍マーカー高値（CA19-9、CEA、Span-1等）	
画像検査異常	膵腫瘍性病変 膵管拡張（3mm以上） 膵の石灰化 膵のう胞性病変 胆道拡張（8mm以上、胆嚢摘出後は11mm以上）	
糖尿病	新規糖尿病発症または発症から2年以内 糖尿病の急速な悪化	
家族歴	膵がんの家族歴 膵炎の家族歴（若年発症で2世代以上にわたる）	
膵炎の既往	慢性膵炎 原因不明または複数回の急性膵炎	

表1

膵疾患 経過観察 連携パス

病名	氏名：男 女 生年月日：ID： かかりつけ医 観察開始年齢： 京都第一赤十字病院主治医		
(リスク因子) ①臨床症状 ②血液検査異常 ③画像検査異常 ④糖尿病（発症、悪化） ⑤家族歴 ⑥膵炎の既往			
経過観察期間（ヵ月）	1年目 0 3 6 9	2年目 0 3 6 9	3年目 0 3 6 9
病院受診日（年） （月日）	2017年 // // //	年 // // //	年 // // //
〈 医院〉 採血（腫瘍マーカー含む） エコーまたはMRCP、 造影CT	☐ ☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐ ☐
〈京都第一赤十字病院〉 採血（腫瘍マーカー含む） MRCP+エコー または 造影CTまたは超音波内視鏡	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐ ☐ ☐ ☐
上部内視鏡検査 便潜血 下部内視鏡検査			
バリアンス	☐ ☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐ ☐	☐ ☐ ☐ ☐

表2

形成外科より乳房再建における刺青処置開始のお知らせ

このたび、京都第一赤十字病院形成外科にて、乳房再建における刺青での乳輪乳頭再建を開始いたしました。

乳房再建は通常、自家組織（筋皮弁など）あるいは、乳房インプラントにより、乳房を再建した後に、乳輪・乳頭を再建することになります。乳輪の色調を再現する方法として、保険診療では、外陰部からの皮膚移植が一般的ですが、入院し、全身麻酔下での手術となります。それに対し、刺青は、自費診療とはなりますが、通院で局所麻酔下に施行可能で、患者様の身体的負担は著しく軽減されます。

自費診療のため、まだ導入している施設は少ないのが現状ですが、当院では3月より施行開始しており、診察・処置込みで5万円の設定にさせていただいています。近畿一円では、最も低い価格帯であると自負しております。

乳房再建後の患者様で、刺青による再建を希望されている患者様がいらっしゃいましたら、ぜひ当院への紹介をご検討いただければ幸いです。

乳輪乳頭形成



皮弁と刺青での再建例

形成外科部長 岩井伸哉

Plastic surgery

就任挨拶とリウマチ教育入院 クリニカルパスのご案内

この度、リウマチ内科副部長を拝命いたしました角谷昌俊です。私は平成13年に京都府立医科大学を卒業後、旧第一内科に入局しました。その後は府立与謝の海病院(北部医療センター)、京都第一赤十字病院(呼吸器内科)、松下記念病院を経て、平成25年から現在のリウマチ内科でお世話になっております。当科通院中の関節リウマチ・膠原病の患者様も1500名を超え、京都府下でも有数の症例数を誇っております。これもひとえに連携を頂いております各医療機関の皆さまのおかげと感謝しております。この恵まれた環境の中でさらに臨床・研究・教育に精進したいと思います。

また今年からは関節リウマチについて全身評価を行い、理解を深めていただくための『リウマチ教育入院』を開始します。関節リウマチの活動性評価・指導に加え、胸部CT、骨塩定量検査などの合併症スクリーニングも行います。是非、ご相談くださいませ。

これからも福田副院長、総合内科尾本部長の下、リウマチ・膠原病センターの発展に貢献できるよう努力してまいります。引き続きご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

リウマチ内科／副部長

角谷昌俊



お知らせ

Information

第8回 がん患者に携わる 医療者対象の研修会

【日 時】
平成29年8月2日(水) 18時～19時

【会 場】
京都第一赤十字病院 管理棟5階 多目的ホール
※詳細は、別紙をご参照ください。

第10回 緩和ケア合同カンファレンス

【日 時】
平成29年8月24日(木) 18時～19時30分

【会 場】
京都第一赤十字病院 管理棟5階 多目的ホール
※詳細は、別紙をご参照ください。

第16回 東福寺消化器フォーラム

【日 時】
平成29年9月21日(木) 19時～21時頃

【会 場】
ホテルグランヴィア京都5F「竹取の間」

【テーマ】消化器診療への新たな取り組み
※詳細は、別紙をご参照ください。

第17回 京都第一赤十字病院 乳腺フォーラム

【日 時】
平成29年10月14日(土) 13時～15時頃

【会 場】
京都第一赤十字病院 管理棟5階 多目的ホール
※詳細は、別紙をご参照ください。

平成29年度 京都第一赤十字病院 看護フォーラム

【日 時】
平成29年10月28日(土) 13時～16時

【会 場】
京都第一赤十字病院 管理棟5階 多目的ホール

第4回 東山泌尿器連携懇話会

【日 時】
平成29年10月28日(土)

【会 場】
メルパルク京都
※詳細は、別紙をご参照ください。

連携室だより

巻末コラム

42

先日、ある研修会において、「医療費高騰の原因としてC型肝炎の治療薬があげられるが、その薬によって100%治癒することから、将来の肝硬変・肝臓がんの減少に結び付くと考えられて、今後もこういう効果のある治療に対しては厚労省も高く評価をしていく」と伺って、医療の進歩に感心し、こういった医療の恩恵により、完治はしないが長期生存可能な疾患も増加しており、さらに重度の障害を得ても再生医療などで修復可能なものが出てきているという時代に生きていることを光栄に思います。子供の頃、「2001年宇宙の旅」などで、小さなスキャナーで異常を見つけて、治療もするという場面を見た記憶がありますが、機械との共存を図り、いかに人口減少(労働力減少)に

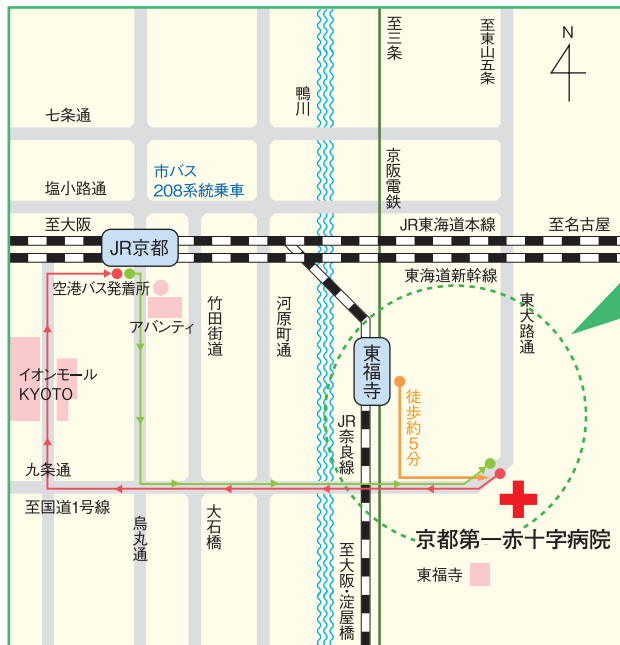
立ち向かうかも、キーワードになってきます。かく言う私も、坂道を登らないといけない今の家に住み続けるには、セグウェイが必要になるかと考えている次第です。(もちろんセグウェイが公道を走れるようになればのことですが。)

機械を使い便利さ・効率化を追求する一方、機械には使われない「医療」を考えていかなければなりません。新院長の元で開催された本年の病診連携懇話会にご出席していただいた方、また残念ながらご出席いただけなかった方にも、新しい時代につなぐ当院のこれからを是非応援したいと存じます。これからもどうかよろしくお願いいたします。

地域連携室

Access to Japanese Red Cross Kyoto Daiichi Hospital

当院へのアクセス



電車をご利用の場合

JR奈良線、京阪電鉄…「東福寺」駅下車、徒歩5分

バスをご利用の場合

市バス202、207、208系統「東福寺」バス停で下車

車をご利用の場合

【奈良、大阪方面から】…京都南IC出口、国道1号線を北へ約2.5キロ京阪国道口を東(右折)へ、九条通りを約2.5キロ

【山科、大津方面から】…国道1号線を西進、東山五条交差点を南(左折)へ、東大路通りを約2キロ

【京都駅付近から】…竹田街道を南へ約500メートル、大石橋交差点を東(左折)へ九条通りを約500メートル

無料シャトルタクシー運行のご案内【JR京都駅八条口⇄病院(地下鉄九条駅経由)】

	八条口発 病院行き	病院発 八条口行き
始発便	7:45 次発 8:10、以降30分間隔で運行	9:00 以降30分間隔で運行
最終便	16:10	16:00

※12:40八条口発の便は運行していません。 ※12:30病院発の便は運行していません。

※交通状況により時刻に遅れが生じる場合があります。
※運行は平日のみとなります。土・日・祝日等病院の休診日は運行いたしません。
※定員9名のため満員の場合は次の便をご利用ください。

京都第一赤十字病院

京都市東山区本町15-749 TEL.075-561-1121

地域医療連携室 【直通】TEL.075-533-1280
FAX.075-533-1282